

新しい目で創る未来

萩原北中学校 三年 青木 美帆

私は、今住んでいる町があまり好きではありませんでした。私の家の近くには、スーパーやコンビニがないし、休日のんびりすごせる公園も家族や友達と遊べる大きなショッピングモールやテーマパークもありません。自然は豊かで、おいしい郷土料理や観光地はあるのですが、田舎ということには変わらないのです。

昨年の秋ごろ、姉妹都市交流の派遣団が募集されました。これは、私が住んでいる下呂市とアメリカにあるペンサコーラ市の中学生が交換留学をする活動です。私はこの派遣団にずっと参加してみたかったので、応募しました。参加した理由は、海外での生活を通して、文化や景色を見たり学んだりして、海外で働くという将来の夢につなげたいと考えたからです。

ホームステイ先の家族に、自分の住んでいる町を紹介するための写真を撮ることにしました。ふとある場所で撮影をした時、「きれいだなあ。」と思いました。いつもより鮮やかに感じたのです。朱色の橋の下でひっそりと夕日に輝く川が。でも、そこは自分にとって当たり前で、見慣れている風景だったので、とても不思議な感覚でした。

ペンサコーラでの生活は、不安もありましたが、ホームステイ先の家族に温かく迎えられ満喫していました。家の中を靴で歩いたことや、外で食べた食事の量の多さと大きさには驚きました。学校では、みんなとてもフレンドリーでたくさん話すことができました。

ペンサコーラでの生活に慣れてきたころ、同じ家で過ごしていたペアの子が、「おみそ汁、飲みたい。」

と言いました。私も同じで、日本では毎日食べていたものが、食べたいと思い、味が懐かしくなるのだと実感しました。

やや蒸し暑かったペンサコーラでの生活から一変、まだ、肌寒い季節であった日本に帰って来ました。桜の時期は終わり、すでに紅葉になっていました。私の地元は、桜の美しい地域です。私は満開の桜を見るのが好きですが、この日は、道路に散っている花びらもきれいだと感じました。

家でのご飯もいつもと同じなのに、温かく感じました。ペンサコーラでのご飯もおいしかったのですが、周りにお店が多く、お店の物を持ち帰ることがよくありました。私の住む町には、そういうお店が少ないです。だからこそ、手作りの素晴らしさに気づくことができました。

夕日に輝く川も、美しい桜も、ここでしか見られない風景で、ペンサコーラの広い海も大きくカラフルな建物もそこでしか見られません。このように、食も文化も景色も、それぞれが違い、独自の文化をもっているのです。

「本当の発見の旅とは、新しい景色をさがすことではない。新しい目で見ることなのだ」

これは、フランスの作家マルセル・ブルーストの言葉です。私は、自分の知らない景色を発見するために今回の研修に臨みましたが、本当に見つけたのは、「地元のよさ」だと気づきました。

今、日本の経済率は低迷しています。経済や産業を発展させるには「イノベーション」が必要です。「もう十分。これ以上の成長は難しい。」などの意見をもっている人たちも少なくないでしょう。しかし、日本はこれまで世界に影響をもたらす多くの物を創り上げてきました。その時の方法や考えを取り入れ、今の時代に合った新しい物を産み出すことが大切だと私は考えます。

将来、私は都市開発や経済について学び、革新的なアイデアを考えられる人になりたいです。そのために、普段から物事を「新しい目」で見て多くの発見をし、学習することを頑張りたいです。そして、いつかこの国の成長に貢献できるようになりたいです。